

私と土木

株式会社エム・テック
葛川清水橋歩道橋上部工等作業所

● 今野 史こんの ふみ

環境建設工学科へ

香川県出身の父と埼玉県出身の母のもと、埼玉県川越市で生まれました。父の仕事により埼玉県内を転々とした後、埼玉県坂戸市で幼稚園から社会人二年目までを過ごしました。今も昔も実家の周辺は山も川もない畑と野原の真ただ中です。

人見知りですがお転婆で、男の子に混ざってサッカーやバスケットボール等をして生傷が絶えませんでした。中学時代もケガが多かったものの剣道部に所属して充実した日々を過ごしました。

大学は父の勧めもあって土木工学への進学を決めました。高校は家政系女子大学の付属高校であり、受験クラスどころか理系クラスもなく、得意分野が人文科学系だったので受験勉強には苦労しました。

当時から環境保全の世論が高まっていた為、大学の「土木工学科」は「建設環境工学科」へと名称を変えていました。講義内容は環境系に偏ってはならず、寧ろ大学で環境や景観等を学んだことで構造物に限らない「環境」に興味を持てるようになりました。

河川環境系の財団に務めた時、縁遠かった「河川」という自然の素晴らしさと恐ろしさを認識するとともに、治水水利行政の理解を通じて防災や減災の意義や可能性を知る機会も得ることができました。それらを通じて、社会資本整備に強く関心を持つようになりました。

エム・テック入社のこと

当社は昭和六十三年にできた比較的若い企業です。プレストレスト・コンクリート橋の上部工事を得意として創業され、技術管理会社から下請、元請へとステップアップしてきた建設会社です。特に、土木・建築の工事経験が豊富な勝村建設やアグリテックを合併したことで飛躍的に技術分野が広がりました。両社共に農業土木工事が得意だったことから、農業土木に親近感を覚えました。

当社は社員を「家族」のように意識しています。がんなどの大病を抱えた方やライフイベントに影響を受けやすい女性も長く勤められるよう臨機応変に工夫しています。建設会社としては多くの女性社員が在籍しています。また、現場代理人等には年齢性別を問わずに意欲ある技術者を積極的に登用する方針です。私も坂戸市の歩道橋の上部工等工事で現場代理人をさせて頂いています。現場は規模が小さいのですが、現場打ちPC橋上部

工のほか護岸工や舗装工等の土木工事が複数あり手間がかかります。社内技術陣や下請の方々などの社内外の大ベテランの方々との協力で竣工がやっと見えてきた所です。小さな資機材一つをとっても名前がわからない物が多々ありますが、現場の方々が丁寧に教えて下さいます。それら資機材の機能やその工夫が非常に良くできていて、実際に架設資材等を組み立てたり支えたりして橋を造り上げていく作業は小さな感動の連続です。



現場にて



職長さんたちと

現場は多くの危険と隣り合わせですので、安全と品質確保を意識しつつ、チームワークは一瞬も途絶えないよう現場全体で協力するリーダーシップを発揮できるよう心掛けています。

結婚のこと

私事ですが、現場が始まった頃に結婚致しました。結婚後は生活環境が全く変わり、周囲の方々にはご迷惑をお掛けしながらも、とにかく無我夢中で現場代理人を務めています。主人が理解してくれているので何とか仕事を続けられており、とても感謝しています。

主人の出身である埼玉県深谷市は農家が多く、有名な深谷ネギのほか、プロッコリーやユリ、チューリップ等も生産が盛んです。周辺地域を含めて熱心な農家が多い一大農業地域であり、現在は国営荒川中部土地改良事業が実施されています。この地域は土地改良事業によって発展し、支えられていると言っても過言ではありません。地元の農家の方々はそのことをよくご存知のようです。気候変動等の変化を受けつつも辛抱強く農業を続けられている日本の大事な農業地帯だと感じております。

女性の活躍

昨年、政府の女性活躍推進政策や建設業の就業人口減少の議論が盛んになり始めたころ、日本建設業連合会では「けんせつ小町委員会」が立ち上がり、委員や部会の一員に私も加えて頂きました。他社の取り組みや意識改革等々を情報共有でき、大変刺激を受けております。とて

も難しい取り組みですが、建設業における女性等ができる限り長く働ける環境づくりに貢献したいと考えております。また、本誌「女性リレートーク」の第一回を執筆された大成建設の龍さんが「一般社団法人土木技術者女性の会」の前事務局長でしたのでお願いをして会員に加えて頂きました。多様なネットワークから少しでも貢献できればと思っています。

建設業でも農業でも、厳しい環境の中で働き続けている女性は沢山いらっしゃいます。やっと建設業の女性技能者等にもスポットライトが当たって参りましたが、農業に従事する女性にももっと広く注目が集まると良いのではないかと思います。母の実家が農家だったので、農業はとても身近に感じています。建設業でさえ女性の役割を見直していることを契機に、重要産業である農業でも女性の役割や可能性を見直すとともに、環境改善や技術開発によってなお一層活性化できるように努める時期が来たのではないのでしょうか。

土地を開墾して畑にし、種を蒔いて作物を育てて収穫するうちに、女性の活躍できる環境が作られ根付いていくのがとても楽しみです。様々な実の形があるように、沢山の種の一粒として、私も一つでも実になるように努力したいと思っています。

今野さんより、しっかりバトンを受け取りました。次号は農林水産行政の現場における取組事例をご紹介します。楽しみにして下さい。

農村振興局農村政策部 農村計画課

農村政策推進室

(旧)北陸農政局九頭竜川下流農業

水利事業所工事第一課

河原 あゆみ

